



## 海上の道 (琉球列島の人々③)

8月③のごあいさつ

山内公認会計士事務所  
2022年8月21日(日)

ユーラシア大陸東端の沿岸沖、太平洋北西の沿岸部に日本列島が誕生し、現在のよう形になったのは、約12000年前とされている。

そのときより8000年も前に琉球列島は中国大陸から分離され、約20000年前には既に東シナ海に存在していた。

だから、沖縄本島で18000年前の“港川人”が発見されたのは、日本列島誕生前であっても特に不思議ではないのである。

歴史を学ぶ者は日本列島と琉球列島の誕生の時間的ズレを先ず学ぶべきである。

大小合わせて140余の島々からなる琉球列島に人々が住むようになったのは、古くは殷の時代(BC. 1600年～BC. 1016年)に宝貝を採取していた中国江南の人々もあり、黒潮を中心とした日本近海の流れ図を見れば理解できるように東南アジアから渡って来た人々が主流であると思える。またその後BC. 600年頃に日本列島から渡来してきたと日本史に記された人々がある。

九州以北に住んでいた人々(琉球人以外の日本人)が、BC7世紀頃、貝塚文化をたずさえて南下して、最初に琉球列島に移住してきたという日本の歴史は、上記の順序からして再考を要する点が多い。

日本では、旧石器時代が終わり、BC. 5000年頃縄文時代が始まるが、それ以前に琉球列島には、山下洞人(32000年前、那覇市)、米原人(3万年前、石垣市)、伊江ゴヘズ人(20000年前、伊江村)、下地原人(20000年前、久米島)、大山人(18000年前、宮古島)、港川人(18000年前、具志頭村)、ピンザアブ人(18000年前、宮古島)など旧石器時代の遺跡や人々が多く発見されている。

それは、その当時から琉球列島に住んでいた人々が、活動し、生活していたことの証である。

このように多くの旧石器時代の人々が、琉球列島で生活していたことは確かであり、約3500年前の中国の殷の時代に稲作技術を持った人々が宝貝を採るために継続的に移住してきて日本人を形成したことも確かである。

徐福が始皇帝の命令により、仙薬を求めて日本へ来たとすれば、そのとき日本では、琉球列島を通じて、既に稲作が中国江南から伝わり、水田耕作が行われていた筈である。

参考：史記(殷本記、始皇本紀)、柳田国男(海上の道、角川文庫)